

2. 光の色(色温度)

光色と色温度

光源の光色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものなどがあります。しかし、光の色を人間の主観で表わす場合、見る人によって微妙に異なってしまいます。一般に、光色を物理的・客観的な数字で表わしたものが色温度です。

色温度

色温度は、K(ケルビン)で表わされます。色温度が低くなればなるほど赤味がかかった光色になり、色温度が高くなればなるほど青っぽい光色になります。例えば、晴天の日の昼間の光は色温度が高めで、白に近い色に見えます。さらに色温度が高くなって7000K以上になると、青味を帯びはじめます。逆に日の出後や日没前の光は色温度が低めで、2300K以下で赤味を帯びはじめます。

[色温度の概数とその光色(代表例)]

色温度	自然光	光の色	人工光源		
12000k	●快晴の北空	青味がかかった光色 ↑	LED電球	電球 その他	蛍光灯 ハロゲン電球
10000k					高輝度放電灯
9000k					
8000k					
7000k	●曇天				
6000k	●晴天昼光 ●平均正午の太陽光	●昼光色相当 (6700K) (6500K)			●スカイビーム(6000K) ●スカイビーム(5600K)
5000k	●午前9時 — ●午後3時 ●日の出2時間後 ●日没2時間前	●昼白色相当 (5000K)		●ナチュラル色(3波長形昼白色) ●ナチュラル色(3波長形昼白色) ●フルホワイト(昼白色)	
4000k	●満月 ●日の出1時間後 ●日没1時間前	●白色相当 (4000K)		●白色(3波長形白色) ●白色 ●温白色(3波長形温白色) ●温白色	●セラメタ(4300K) ●セラメタプレミアS(4200K) ●マルチハロゲン灯SC形 MF400L/BUSC/N(4200K) ●蛍光水銀灯HF400X/N(4100K) ●セラメタH(4100K) ●セラメタプレミアSPD(3800K) ●パラストレス水銀灯 BHF200-220V500W/N(3700K) ●セラメタプレミアS(3500K) ●セラメタ(3500K)
3000k	●日の出40分後 ●日没40分前 ●日の出30分後 ●日没30分前	●電球色相当 (3000K) (2800K) (2700K)		●スタジオ用ハロゲン ●電球色(3波長形電球色) ●一般照明用ハロゲン ●演色AAA電球色	●セラメタプレミアS(3000K) ●セラメタ(3000K) ●セラメタプレミアS(2900K) ●セラメタプレミアSPD(2800K) ●ハイカイト(演色特長型ナリカイト) 高演色形(2800K)
2000k	●日の出20分後 ●日没20分前 ●日の出 ●日没	●赤味がかかった光色 ↓		●アセチレン炎 ●石油灯 ●ろうそくの炎	●ハイカイト(演色特長型ナリカイト) 高演色形(2500K) ●ハイゴールド(効率本位形) NH360FLS/N(2000K)

色温度の影響

色温度の高低は、温涼感(温かいイメージ・涼しいイメージ)に影響を与え、空間の雰囲気左右します。ただし、ここで注意していただきたいのは、色温度の違いは、色の見え方の良否とは関係がないということです。つまり、赤味のある色温度の低い光源が、赤いものを美しく見せるということではありません。

色温度:7200Kのイメージ	温涼感の目安
	5300K以上 涼(クール)
色温度:5000Kのイメージ	5300K~3300K 中間(ニュートラル)
	
色温度:2100Kのイメージ	3300K以下 温(ウォーム)
	